IGS日本支部賞

2019年度ＩＧＳ日本支部賞受賞結果報告

IGS日本支部　表彰委員会

国際ジオシンセティックス学会日本支部では，学会活動をより活性化するために，ジオシンセティックスシンポジウム（ジオシンセティックス論文集）に採択された論文およびジオシンセティックス技術情報に掲載された技術報文の中から，優れた論文，技術報文に対して下記の支部賞を授与しています。

JC-IGS 論文賞，JC-IGS 論文奨励賞の対象は，2017，2018年のジオシンセティックス論文集に掲載されたもので，JC-IGS 技術賞，JC-IGS 技術奨励賞の対象は，2017年3月号～2018年11月号のジオシンセティックス技術情報に掲載された技術報文です。また，受賞者の資格は，IGS日本支部の会員（個人会員，学生会員，特別会員）および会員を代表とする機関あるいはグループで，JC-IGS 論文奨励賞については，募集公示年の１月１日現在における年齢が満35歳未満の個人会員または学生会員です。

各賞は，行事委員会，編集委員会において推薦された論文，技術報文をもとに２段階の審査の後，表彰委員会で決定致しました。2019年12月に行われた第34回ジオシンセティックスシンポジウムの表彰式で受賞者を発表し，支部長が下記の通り各賞の授与を行いました。

１．ＪＣ−ＩＧＳ論文賞（ジオシンセティックスに関する学術および技術の進展に顕著な貢献をした論文の著者）

受賞者：篠田昌弘，東野圭悟，久保哲也

論文名：降雨ハザードを用いた地震時の補強土壁の確率論的リスク評価（ジオシンセティックス論文集，第33巻，pp.139-144，2018.）

授賞理由：

本論文は，降雨ハザードを用いた地震時の補強土壁の安定性を確率論的な評価を提案し，降雨ハザードとフラジリティを用いて地震や降雨時における補強土壁の損傷頻度を求めた結果，背面水位の上昇に伴って補強土壁の損傷する確率が高まることを定量的に示した。また，降雨ハザードを過去の降雨データから作成する方法や，日降水量と補強土壁の背面水位を関連付ける点などが独創的で，降雨の地域特性を考慮できるという利点もあり，今後の実務への応用も十分に期待でき，補強土壁の供用に対して学術的および技術的な貢献が大きく，今後の進展が期待される。

２．ＪＣ−ＩＧＳ論文奨励賞（ジオシンセティックスに関する研究を行い、将来、学術および技術の進展に貢献が期待される論文の著者）

受賞者：太田遥子，小野耕平，河村未奈

論文名：ジオグリッドを用いた埋設管スラスト防護工法の形状寸法が付加抵抗力に与える影響について（ジオシンセティックス論文集，第 33 巻，pp.55-60，2018.）

授賞理由：

本論文は，スラスト力が作用する圧力パイプライン屈曲部に対して，ジオグリッドと砕石を用いた軽量スラスト防護工法について，抵抗力に直結する受働側地盤のせん断領域の発生位置について検討し，大変位レベルにおいては対策工の寸法が付加抵抗力に明確な影響を与えること，また，受働側地盤に発生するせん断領域はくさび型でおおよそ近似できることを明らかにした。本研究の成果は，農業用パイプラインだけでなく，圧力パイプライン全般に適用できると期待され，地盤工学的視点に基づいた検討は学術的にも価値があり，今後の展開が期待される。

３．ＪＣ−ＩＧＳ技術賞（ジオシンセティックスに関する技術の進展に顕著な貢献をした、個人・グループ）

受賞者：藤田智弘，宮田喜壽

報文名：道路における補強土壁の維持管理に関する取り組み（ジオシンセティックス技術情報，Vol.33，No.3，pp.24-31，2017.）

授賞理由：

本報文は，道路における補強土壁の維持管理に関する取り組みとして，これからの道路土工構造物等のマネジメントについての考え方の概要，補強土壁の特性・特徴，維持管理の課題，補強土壁の維持管理手法の開発について示したものである。補強土壁が国内に普及して 50 年近くが経つが，管理者側では明確な手法が定められていなかったが，補強土壁の維持管理手法について，多数の事例がまとめられており，従来示されていなかった補強土壁の維持管理手法を明確に示しており，補強土壁の維持管理手法を確立した点で新規性が認められ，今後の補強土壁の普及に寄与するものと考えられる。

４．ＪＣ−ＩＧＳ技術奨励賞（ジオシンセティックスに関する技術的研究を行い、将来、学術および技術の進展に貢献が期待される論文の著者）

受賞者：松田圭大，林啓二，原靖，木幡行宏，久保幹男，安達謙二

報文名：グラベル基礎補強工法による軟弱地盤対策（ジオシンセティックス技術情報，Vol.33，No.1，pp.15-20，2017.）

授賞理由：

本報文は，軟弱地盤である泥炭地盤上の盛土構築における地盤改良工法として，盛土底部に礫材を高強度帯状ジオシンセティックスで巻き上げて盤状効果を期待した合成部材を敷設した新たな軟弱地盤工法について示したものである。本工法に対する試験施工における動態観測結果に基づいて軟弱地盤の改良工法としての有効性を明らかにしており，早期実用化が期待される工法であるとともに，盛土の軟弱地盤対策だけでなく，他の箇所にも適用が見込まれるため，今後の展

望が期待される。